

常不輕菩薩の生き方に切り替えよう

【7月8月度の御金言】汝早く信仰の寸心を改めて、速やかに実乗の一善に帰せよ然れば則ち三界は皆仏国なり、仏国其れ衰へんや、十方は悉く宝土なり、宝土何ぞ壊れんや。

【立正安国論】（全集 32 頁）

法華講信条

- 1, 謗法厳戒の信仰を貫こう。（信心）
- 1, 行学絶へなば仏法はあるべからず。（行学）
- 1, ただ一言でも妙法を伝える勇気を持とう。（破邪顕正）
- 1, どんなことがあっても憶持不忘の信心を貫こう。
- 1, 現世利益絶対否定の信心をしよう。（示教利喜）
- 1, 成仏大願、菩提心堅固の精進をしよう。
- 1, 御題目を唱える為にこそ生まれてきた自覚を持とう。



御題目を唱える為にこそ生まれてきた自覚を持とう。

法華經二十八品を天台大師智顗は、【一念三千の法】と表現しました。

【一念三千】の【一念】とは、一切衆生平等成仏の法である南無妙法蓮華經の法を心から念ずる事であります。【三千】とは、森羅万象の永遠の過去から現在、永遠の未来の無始無終永遠常住の一切の生命、心の世界、色心不二全部の事であります。いつも皆さん方に御話する、【露を大海にあつらえ】の説明で言うと、【露】が【一念】【大海】が【三千】という関係になります。分量的に言えば【一念】が一滴で小さく、【三千】が森羅万象一切衆生で多大と考えますが、【一念】と【三千】はイコールで同等平等であると説かれます。何故か？大海の【三千】の成分と一滴の【一念】の成分は同じだからであります。【三千】は【一念】が【三千】集まったもので同質であり根源は同じ、つまり【三千】も【一念】も南無妙法蓮華經の仏性が同等平等に具わり貫かれているのであります。だからこそ、【どんな生命にも南無妙法蓮華經の仏の生命が具わり、どんな生命も成仏する資格が有る】という法なのであります。その事を自覚する生命と自覚出来ない生命、信じる生命と信じる事が出来ない生命、信じる以上は、真面目に信心修行に励む人、さぼる人、逆らい怒り謗法を犯す人等々千差万別種々雑多の衆生が南無妙法蓮華經の縁に触れて現われるのであります。しかしどの生命も、信じようが信じまいが基盤根底は全て南無妙法蓮華經ですから南無妙法蓮華經から外れて存在する生命は無いのであります。つまり、南無妙法蓮華經の【三千】の大海から、一滴の【一念】の生命がすくわれ、この世に生まれます。そして、南無妙法蓮華經に縁し、信じる者は南無妙法蓮華經の仏性を生命心で感じ南無妙法蓮華經の生命心で生きようと志します。そして生老病死の人生を送り、【三千】の南無妙法蓮華經の大海、故郷に帰って行きます。その大海には、過去に亡くなった御父さん、御母さん、兄弟姉妹、祖父祖母、自分の知らない何百代に渡る先祖、夫、妻、子供、好きな人、嫌いな人等々自分が知らなくても、自分が存在する為に必要不可欠な人達、自分が食べて生命を維持させてくれた、土、空気、光、水等々全ての生命に至るまで溶け込んで存在しているわけですから、肉体も心も【三千】の大海全体に溶け込んでいますから、肉体があった時の様に家族団らんという訳にはいきませんが、南無妙法蓮華經の生命として出合う事が

出来るのであります。だからこそ私達は、御題目を唱える為にこそ生まれてきた自覚を持たなければいけないのであります。南無妙法蓮華經の御題目は、全ての生命の基盤だからであります。

口で南無妙法蓮華經の御題目を唱える時は、心【一念】も、南無妙法蓮華經と一緒に唱えて下さい。口が南無妙法蓮華經と唱えていても、心が違う事を考え、南無妙法蓮華經と唱えていなければ、南無妙法蓮華經と唱えている事にはなりません。心が南無妙法蓮華經を信じ、南無妙法蓮華經と念じ唱えるから、口が南無妙法蓮華經と唱えるのが、当たり前の本当の信心修行であります。